

令和5年度裾野市地域公共交通活性化協議会(第3回)議事録

日時:令和6年1月16日(火)14:30~16:15

場所:裾野市民文化センター 3階会議室

・出席者 別添資料 No.1のとおり

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 委員及び出席者紹介
4. 議事

【報告事項】

- (1) 裾野市内循環線の利用状況について(資料 No.3)

資料 No.3のとおり、令和5年度12月末までの裾野市内循環線の利用状況について説明。

《質疑等》

特に無し。

【報告事項】

- (1) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について(資料 No.4)

市内循環線バスについて、地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)を活用しており、その交付要綱等に基づき、毎年度協議会自ら事業実施の確認、評価を行い、当該自己評価の結果を、補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに中部運輸局長あてに報告する。

資料4の令和4年10月~令和5年9月までの事業期間における事業と、評価の内容を説明。

《質疑等》

藤井委員: 資料4「③前回の事業評価結果の反映状況」の表記について。「③:市内循環線の乗車調査により利用者に直接アプローチし」の、「直接アプローチし」という言葉が適切か気になる。表現を滑らかにした方がいい。内容は、問題ない。

また、資料内の表現を統一したほうがいい。

事務局:修正する。

《承認》

- (2) 地域間幹線系統に関する事業評価について(資料 No.5)

県地域交通課から「地域間幹線系統に関する事業評価」について概要説明。

11系統で評価が向上。コロナの5類移行により、乗客数が増えたことが要因。

富士急シティバスから、「地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート」をもとに須山線、桜堤線について説明。両路線ともに B 評価。

富士急モビリティから、「地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート」をもとに御殿場線、十里木線について説明。御殿場線は、今年利用者数が大幅に増加、収支率も改善。十里木線は、利用者数が増えたが、収支率はそこまで増えていない。短距離利用者が多いことが影響。観光客をうまく取り込んでいきたい。

事務局から「地域間幹線系統市町取組シート(様式3)」について説明。

《質疑等》

特になし。

《承認》

(3) 退出申し出路線について (資料 No.6)

富士急シティバスから退出申し出路線について資料6のとおり説明。

須山線の2区間について。帝人アカデミーに乗り入れている区間について、帝人アカデミーの営業終了にともない退出。中今里の区間について、通学を想定して設置していたが、10月まで利用者がいなかったため、退出。

《質疑等》

山本委員(県地域交通課):両区間とも利用者がいないということだが、周辺住民の理解は得られているか。

富士急シティバス:帝人アカデミーについては、施設の営業終了にともなうため問題はない。中今里については、利用者がいなかったということで理解を得たい。

市長戦略部長:住民説明会は実施して報告してもらえるか。

富士急シティバス:説明会なし、文書での連絡は今後行う予定。担当課と調整する。なるべく早期に実施する。

《承認》

(4) 単独継続困難申し出路線について (資料 No.7)

各事業者が説明

富士急シティバス

須山線:燃料費以外にも整備費、人件費も増加しており、運行経費が増えている。今後の運営について、運転手

不足に対応するため、減便しつつも小中学生利用のため、裾野駅発などにして対応していく。三島線や桜堤線への乗り継ぎ対応。時刻表についてはイメージであり、学校関係や JR とのダイヤ改正と調整をしていく。

桜堤線：収支状況については、コロナ禍からの回復傾向で良くなっているが、運行経費の増大のため欠損額は増えている状況。2024年問題による運転手不足対策として夜の遅い便を減便する。時刻表は確定次第、提供する。

富士急モビリティ

御殿場線：利用者数は回復している。ただ、運送経費があがっている状況。

R6年4月から裾野駅へのロータリー乗り入れを検討している。市や富士急シティバスと検討中。乗り入れをすることになれば、5分から10分のずれが生じる。

十里木線：短距離の利用、御殿場市内で完結してしまう利用がどうしても多い。ただ、地元住民から継続要望の声があがっている。観光利用をうまくとりこんで、赤字部分をまかなっていききたい。

《質疑等》

教育部長：富士急シティバスの須山線の運行時刻表イメージについて、時刻の整合性がとれない誤りがあるから、確認修正してほしい。

三島駅 11:20 発(現行)のバスが新しい時間では何分になるのか。小中学生が午前中授業で終わる場合に、もう10分遅いと慌てずに乗車できる。

富士急シティバス：社内に持って帰って確認検討する。教育委員会に回答する。

市長戦略部長：御殿場線の裾野駅のりいれについては、いつが目標か。

富士急モビリティ：これから運輸局と相談して、4月のダイヤ改正を目標。

市長戦略部長：事業者にお願い。時刻表をお知らせするときに、広報紙とあわせて配布している。提出期限があり4月1日に渡すのであれば、担当課と調整して時間を気にして対応してほしい。

《承認》

(5) 市自主運行路線岩波駅線(岩波駅循環線)について (資料 No.8)

事務局より説明。

概要、現状と課題については記載のとおり。

岩波駅線は今年度で廃止。

須山線を維持することで代替え可能。

バス利用者については実際にバスに乗車して説明、バス車内への掲示、説明会の実施を考えている。

《質疑等》

鎌野委員：目的が岩波駅周辺の送迎による混雑解消となっているが、もう解消されているのか。
人数が少なくても誰かが使っている。効率が悪いから切ってしまうのは、言い方として間違っている。
1人でも使う人がいたら、残したほうがいい。

事務局：説明が財政的な話ばかりになってしまい、申し訳ない。利用者がいる限り走らせたいという気持ちは市も同じ。ただ、何年か継続して走らせてきてこの利用状況のため、いったん終了し、市内循環線のほうを充実させたい。廃止になって、また地域から路線がなくて困るという意見があれば、別の方法で検討していきたい。

岩波駅については、駅周辺整備課で整備をすすめている。駅前ロータリーの整備が出来てきたときに、岩波駅を中心とするバス路線を検討したい。

《承認》

自主運行路線岩波駅循環線の運行廃止。

(6) 裾野市内循環線について（資料 No.8）

事務局より説明。

バスの実際の利用者から聞き取りをして再編の素案を考えた。

ルートとしては、東西ルート・南北ルート。ただし、大きく路線を変えるのではなく、循環型を往復型にかえていきたい。今後の方針は、令和6年10月の再編実施を目標として、関係機関の協力を得ながら進める。

また、令和6年4月から再編案をベースとした試験運行を一部で実施したい。現行の3便の前後に1本ずつ追加する。

対話集会の意見をまとめた資料。

便数がもっとあった方がいい、行き帰りで使える便がいい、循環線は駅まで移動にすごく時間がかかるという意見があった。バスの車内も1つのコミュニティになっている。便数の確保、循環型から往復型への変更をして、市内循環線を再編していく。

再編ルート案

東西ルート図(千福が丘・青葉台)：循環線ではなく、裾野駅を中心とした往復型に変更する。青葉台と裾野駅を結ぶルート。その後、裾野駅と主要施設を経由し、千福が丘を結ぶルート。

南北ルート図(岩波・富沢)：岩波駅に行くルート。緑色とピンク色のルート。行きは緑で、帰りはピンク。裾野駅に着いたら、ピンク色のルートを通り、緑色のルートで戻る路線。

《質疑等》

藤井委員：循環線がその一廃止に伴って、最終手段として実施した。十分な準備期間がなかった。

これまでの実態を想定した形の中で線を引いた、一筆書きで全体を網羅せざるを得なかったというのが過去の経緯。

利用者の声を聞いて、ネットワークの再編に。

実利用者が集まって検討。本来の公共交通を維持していくアプローチを、丁寧にとってきた状況という風に感じ

た。

今回のサービス継続事業は、5年の実証実験の中で、利用者数をきちんと維持継続していかななくては、バスがなくなる可能性が出てくる。

時間的な制約があって厳しいが、地域の住民の方が混乱しない形をとってほしい。

高齢者にもしっかりと伝わるようにしてほしい。

本格的な運行をしていく際も丁寧に調べてほしい。

地域から乗るという要望があがってくるが、実際に乗らないことが多い。

丁寧な調査を継続してほしい。

鎌野委員:時間を早くできないか？

9時20分の駅スタートを早くしてほしい。

イベントなどの参加者の移動手段がないから参加できないという意見がある。会員からも要望。

事務局:そういった話を伺っていて、早い便を増やせるように考えていく。

5. その他

市長戦略部長:1月15日に首長座談会を実施した。自動運転について協議した。

藤井委員:連携して自動運転に取り組む事例は珍しい。

県の交通基盤部での実証運行(沼津、松崎町)などのスローモビリティに参加していた。

市町が実際に自動運転をどう根付かせるかが大事。

ポンチョを使った時速35km走行ができた。通常のバス運行とそん色ない。

遠隔操作で将来的にはバス事業者で実施してもらいたい。

自動運転のレベルはあがっている。

信号機の認識や横断歩道での歩行者などで、運転手の力を借りることはあった。

三島駅から下土狩駅への使い方は通学。

未来を考える若い力のため、高校生の総合学習に協力してもらい、継続的に実施したい。

事務局:委員の皆様は3月末までの任期。

R6年度以降の委員選出については改めて連絡。